

◎景気ウォッチャー調査[2022年12月]

2022年12月の中国地域調査結果の概況

■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を0.9ポイント下回る48.3となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「良くなっている」の回答の割合が減少し、「12月に入り、通常であれば週末を中心に来客数が増え、重衣料を中心に販売量が増加していくが、今年は来客数、販売量共に前年を大幅に下回っている。客は最低限の商品しか購入しない。」(百貨店)、「新型コロナウイルスの感染状況の悪化により、3か月前と比べると、法人利用の動きが悪くなっている。個人利用についても3か月前ほどのにぎわいが無い。」(都市型ホテル)等の理由から、「やや悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を0.4ポイント下回る48.1となった。

企業動向関連は、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「ロシアのウクライナ侵攻の長期化や円安の影響による輸入原材料価格の上昇や原油高が利益を圧迫しており、景気が更に悪くなっている。」(木材木製品製造業)、「燃料価格の高騰で電気料金が高くなり、客の購買意欲をそいでいる。電気に限らず、ICT関連機器の価格高騰や品不足により、全体的に購入スピードが遅くなっている。」(通信業)等の理由から、「やや悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を3.5ポイント下回る45.0となった。

雇用関連は、前月と同ポイントの55.9となった。

	12月	11月	前月差
合計	48.3	49.2	-0.9
家計動向関連	48.1	48.5	-0.4
企業動向関連	45.0	48.5	-3.5
雇用関連(参考値)	55.9	55.9	0.0

■景気の先行きに対する評価

現在より3か月前の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を0.9ポイント下回る47.6となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「現在は、客が単価の上昇を受け入れてくれているものの、物価の上昇ほど収入が増加していないため、今後は客の買い控えで売上が減少する。」(スーパー)、「全国旅行支援による一時的な景気回復は長続きしない。」(観光型ホテル)等の理由から、「やや悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を0.8ポイント下回る46.6となった。

企業動向関連は、「賃貸住宅の需要時期になるので景気は良くなる。」(不動産業)、「新型コロナウイルス感染症が徐々に終息し、経済活動が活発化する。ものづくり補助金、事業再構築補助金が設備投資につながり始める。」(会計事務所)等の理由から、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を0.8ポイント上回る50.0となった。

雇用関連は、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「光熱費や物価の上昇があらゆる産業に影響を及ぼすため、景気はやや悪くなる。」(新聞社)、「管内の観光スポットの人流が良くなり、コロナ禍で休業していた店舗が再開する動きもあるが、直近の新型コロナウイルスの新規感染者数の急増と物価上昇が雇用に与える悪影響は避けられないため、景気はやや悪くなる。」(職業安定所)等の理由から、「やや悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を4.4ポイント下回る50.0となった。

	12月	11月	前月差
合計	47.6	48.5	-0.9
家計動向関連	46.6	47.4	-0.8
企業動向関連	50.0	49.2	0.8
雇用関連(参考値)	50.0	54.4	-4.4